

第381号 (令和2年6月1日(月)発行)

発行所
京都女子大学 宗教部
京都市東山区今熊野北日吉町35
電話 075 (531) 7074

華利陀分

この心深く信ぜること
金剛のいよくなるによ
つて、一切の異見・異
学・別解・別行の人等
のために動乱破壊せら
れず。

(善導「観経疏」)



正義の見方

仏教学非常勤講師 清基秀紀

正義の味方

正義とは何だろうか。子どもの頃、テレビには正義の味方がいて、毎週悪者を退治してくれた。ウルトラマンや仮面ライダー、アンパンマンと、いつの時代にも勧善懲悪のヒーローがいて番組の終了五分前には、いつも正義が勝った。

しかし、彼らはいったい何と戦っていたのだろうか。世界征服をたくらむ秘密結社や、宇宙から地球支配のためにやってきた怪獣など、テレビで戦う相手は明白だった。何度負けても次から次へと登場する悪役は、ある意味、番組の主役でもあった。その悪と戦うことが正義であり、それが善の正体であった。

しかし、彼らはいったい何と戦っていたのだろうか。世界征服をたくらむ秘密結社や、宇宙から地球支配のためにやってきた怪獣など、テレビで戦う相手は明白だった。何度負けても次から次へと登場する悪役は、ある意味、番組の主役でもあった。その悪と戦うことが正義であり、それが善の正体であった。

しかし、彼らはいったい何と戦っていたのだろうか。世界征服をたくらむ秘密結社や、宇宙から地球支配のためにやってきた怪獣など、テレビで戦う相手は明白だった。何度負けても次から次へと登場する悪役は、ある意味、番組の主役でもあった。その悪と戦うことが正義であり、それが善の正体であった。

しかし、彼らはいったい何と戦っていたのだろうか。世界征服をたくらむ秘密結社や、宇宙から地球支配のためにやってきた怪獣など、テレビで戦う相手は明白だった。何度負けても次から次へと登場する悪役は、ある意味、番組の主役でもあった。その悪と戦うことが正義であり、それが善の正体であった。

しかし、彼らはいったい何と戦っていたのだろうか。世界征服をたくらむ秘密結社や、宇宙から地球支配のためにやってきた怪獣など、テレビで戦う相手は明白だった。何度負けても次から次へと登場する悪役は、ある意味、番組の主役でもあった。その悪と戦うことが正義であり、それが善の正体であった。

か。悪が見えなければ、どうやって善を示せばいいのだろうか。

植民地と宣教師

ヨーロッパ諸国の南米やアジアへの植民地支配には、キリスト教の宣教師が同行した。

権力で支配するよりは、宗教の力を借りるほうが、効果があった。

しかし、宣教師は支配のために宣教をしたのではなく、善意から現地の人々に教えを広めた。

神の恩寵をまだ知らない不幸な人々に、ありがたい神の教えを伝えてあげたい。原始的な土着信仰の代わりに、高度な西洋文明で育まれた宗教を教えてあげれば、みんな喜ぶに違いない。そういった信念や善意が宣教の動機であった。

戦国時代に日本にやってきたポルトガルの宣教師も、本国あての手紙のなかで、仏教という悪魔の宗教から人々を救いたいと思いを伝えている。

そこにあるのは「善意」である。それが彼らの「正義」なのである。自分たちの信じる神こそが善な

のだ。一神教では神は一人であり、それ以外の神は存在しない。

自己たちの信じる宗教

自分たちの信じる宗教だけが正しいという独善性は、どの宗教にも存在する問題である。何が本当の善なのか、考えれば考えるほどわからなくな

る。善とはいったい何なのか。

仏教における善とは、さとりに至るための方法である。その方法として、八つの正しい道が示されている。

正しい見方、正しい考え、正しい言葉、正しい行い、正しい生活、正しい努力、正しい憶念、正しい精神統一である。

しかし、正しい見方などと言われても、何が正しいのか人によって判断は異なるだろう。

そこで具体的な方法として戒律が示される。仏教徒が行うべき正しい行為ではなく、してはならない行為が戒律である。

殺生はいけない。ウソはいけない。盗んではいけない。不適切な異性関係はいけない。飲酒しな

いという五つは在家信者が守る戒律だが、修行者に示されるさまざまな戒律は、さとりに至る道案内として存在する。

たえ戒律を破ること

があっても、神によって罰を受け、さとることが出来なくなるわけはない。さとりに至る道を見失うことがなければ、回り道となるだけである。

さとりに至る正しい道を示すために、誤った方向とは何かを示し、それを回避するように教える。正しい道を歩んでいくと思っても、気がつくとき誤った方向にそ

れていることがある。何が誤った方向かを示すことによって、道をそれていることに気付かせてくれるのである。

正しさとは何だろうか。それを示すことは難しい。それで、正しくな

いことを示すことで正しさの方向を示す。

交通ルールも、それぞれの車が正しく考えるスピードや曲がり方でバラバラに走るのではなく、規則を決め、それが

ら外れることを違反として示すことで正しさを示している。

ネットの正義

世の中の不正が報道されると、その不正に関わる個人や企業の名前がインターネットで明らかに

される。匿名の攻撃が執拗に繰り返される。それは「炎上」とよばれる。

テレビのワイドショーでも、不正や悪は徹底して非難され、個人攻撃は繰り返される。「正義」は、視聴者の共感を呼ぶ。

しかし、不正を非難する人は、そんなに立派な存在なのだろうか。匿名であれば自らが非難されることはないが、自らの悪は、他人の悪を非難する「正義」によって覆い隠される。「正義」を叫び正義に酔うものに、自らの悪は見えないのである。

親鸞は、山をおりた。正義は山をおりた。正しいと信じていた善のあやうさに、気がついたのである。

そして煩惱を捨てきれない人間を救おうと誓う

阿弥陀仏の本願に出遇ったのである。

親鸞の他力

親鸞は、山をおりた。正義は山をおりた。正しいと信じていた善のあやうさに、気がついたのである。

そして煩惱を捨てきれない人間を救おうと誓う

阿弥陀仏の本願に出遇ったのである。

親鸞は、山をおりた。正義は山をおりた。正しいと信じていた善のあやうさに、気がついたのである。

そして煩惱を捨てきれない人間を救おうと誓う

阿弥陀仏の本願に出遇ったのである。

阿弥陀仏の本願に出遇ったのである。

自力で行う私の善は、

煩惱をかかえた私に起源がある。しかし、本当に純粋な善は、煩惱を離れた私の外から私にはたらきかける他力の善である。

私に根拠をおかないところに、本当の正義がある。

六月に入っても新型コロナウイルスの影響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

標準

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影

「歎異抄」

響で、対面授業ができない状況にあります。新型コロナウイルスの影



災害と京都の近代文化

発達教育学部教授 山野 てるひ

「世のなか 安穩なれ」

十年近く前になるでしょう。本学キャンパスのいくつかの場所に慎ましく貼られている「世のなか 安穩なれ」という言葉にふと足が止まり、佇まずにはいられないことがありました。私自身、阪神淡路大震災で被災し、その後も鳥インフルエンザや豚インフルエンザなどが流行り、折しも東日本大震災で想像もつかぬ大災害に見舞われた後であったように思います。世のなか、安穩であることが決して当たり前ではなく、どれほど稀で貴いことなのか、思わず頭を垂れる気持ちになったことを思い出します。恥ずかしいのですが、それが『御消息集』

の中に出てくる親鸞聖人の言葉「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」からとられ、七五〇回大遠忌のスローガンであることは後で知りました。そして今また、新しい令和の時代になって新型コロナウイルスのパンデミックという全く予期せぬ事態が起きてしまいました。緊急事態宣言が出されて大学の授業も対面を避けるために、その対応に追われています。

恐られました。本学のある京都でも1877(明治10)年から90(明治23)年にかけて、コレラが大流行し、市内全域に広がって犠牲者が多数にのぼる非常事態となっていました。その少し前、1869(明治2)年には、東京遷都が決定的な事実となり、二条城を中心として維新政府の首都建設に強い希望を抱いていた京都に打撃を与えた時期でもありました。

でもあり、特に平安神宮は平安時代からの古式ゆかしい神社のように思われがちですが、平安遷都1100年記念祭の目玉となったのがこの平安神宮の創建でした。美術館や工芸館、工業館、機械館、水産館など立ち並ぶパビリオンの一段奥まったところに博覧会の象徴として建設(設計、伊東忠太)されました。つまりまだ創建125年の京都の中では新しい神社と言うことになりました。

その後、1933年(昭和8)、平安神宮の大鳥居の東側に昭和天皇の即位の大礼を記念した大礼記念京都美術館(現京都市京セラ美術館)が建設されました。戦後には大鳥居の西側にあった勸業館別館が国立近代美術館(現京都国立近代美術館)として、北側に京都美術館(現ロームシアター京都)が次々開館し、博覧会跡地は正しく京都の文化芸術の発信拠点となっていました。

「この心深く信ぜること金剛」
「のこくくなるによつて、一切の異見・異学・別解・別行の人のために動乱破壊せられず。」
(善導『観経疏』)

浄土真宗の信心は「金剛」、すなわち絶対に壊れないものに喩えられます。金剛のような信心は、浄土真宗と異なる考えを持つ人からも乱されることはないのです。でももし、卓越した知性を持ち尊敬もされている人物が、浄土真宗の阿彌陀仏の救いを否定したら? 実際にあることです。あんな優秀な人が言うのならばもしかしして…。

「心の乾いた時代はどう生きるか。やさしく、深く、説かれた宝石のような書である。私も常に座右に置きたい一冊だ。」
これは、この書物の帯に書かれている五木寛之氏の言葉です。

「この書物は、浄土真宗本願寺派第二十四代門主・大谷光真氏が書かれた書物です。現在は、前門主という立場になっておられますが、この書物が発行された時は、まさに、現役の御門主として活動されていた時期でした。御門主と言え、その宗派のトップであり、本願寺派には本願寺出版社という組織もある。通常、御門主の書物は、そこから出版されています。」

「人ばなせ生きるのせしよ」「人はみな、願われて生を受けています」「人は誰でも自分に都合よく生きようとすることです」「鏡を脱いで接したら、世のなかはずっと生きやすい」「私の生き方に、不安や迷いが生じたら…」等、興味深いものがたくさんあります。また、私が色々ところで紹介する文章は、「善人とは誰のことですか?」というところから取られている話です。そこには、「善人ばかりの家庭は争いが絶えない」という言葉が紹介されています。この言葉は少しおかしな感じがしませんか。通常なら、「悪人ばかりの家庭は争いが絶えない」となるはずですが、ところが、悪人と善人がひっくり返っているのです。

『朝には紅顔ありて』
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年



疫病の流行と「京都策」
近代のわが国の特筆する疫病を振り返ると、コレラが初めて日本に伝播したのが幕末の1822年(文政5)と言われています。その強い伝染力と高い死亡率で人々に大変

しかしながら、この苦境から脱するため、京都は新たな近代化に向けた施策を打ち出します。京都の衰退を防ぎ、復興を図るための諸事業が、明治初年から大正期にかけて行われました。一期か

「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

「世のなか 安穩なれ」
十年近く前になるでしょう。本学キャンパスのいくつかの場所に慎ましく貼られている「世のなか 安穩なれ」という言葉にふと足が止まり、佇まずにはいられないことがありました。私自身、阪神淡路大震災で被災し、その後も鳥インフルエンザや豚インフルエンザなどが流行り、折しも東日本大震災で想像もつかぬ大災害に見舞われた後であったように思います。世のなか、安穩であることが決して当たり前ではなく、どれほど稀で貴いことなのか、思わず頭を垂れる気持ちになったことを思い出します。恥ずかしいのですが、それが『御消息集』

「この心深く信ぜること金剛」
「のこくくなるによつて、一切の異見・異学・別解・別行の人のために動乱破壊せられず。」
(善導『観経疏』)

浄土真宗の信心は「金剛」、すなわち絶対に壊れないものに喩えられます。金剛のような信心は、浄土真宗と異なる考えを持つ人からも乱されることはないのです。でももし、卓越した知性を持ち尊敬もされている人物が、浄土真宗の阿彌陀仏の救いを否定したら? 実際にあることです。あんな優秀な人が言うのならばもしかしして…。

「心の乾いた時代はどう生きるか。やさしく、深く、説かれた宝石のような書である。私も常に座右に置きたい一冊だ。」
これは、この書物の帯に書かれている五木寛之氏の言葉です。

「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

『朝には紅顔ありて』
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

「世のなか 安穩なれ」
十年近く前になるでしょう。本学キャンパスのいくつかの場所に慎ましく貼られている「世のなか 安穩なれ」という言葉にふと足が止まり、佇まずにはいられないことがありました。私自身、阪神淡路大震災で被災し、その後も鳥インフルエンザや豚インフルエンザなどが流行り、折しも東日本大震災で想像もつかぬ大災害に見舞われた後であったように思います。世のなか、安穩であることが決して当たり前ではなく、どれほど稀で貴いことなのか、思わず頭を垂れる気持ちになったことを思い出します。恥ずかしいのですが、それが『御消息集』

「この心深く信ぜること金剛」
「のこくくなるによつて、一切の異見・異学・別解・別行の人のために動乱破壊せられず。」
(善導『観経疏』)

浄土真宗の信心は「金剛」、すなわち絶対に壊れないものに喩えられます。金剛のような信心は、浄土真宗と異なる考えを持つ人からも乱されることはないのです。でももし、卓越した知性を持ち尊敬もされている人物が、浄土真宗の阿彌陀仏の救いを否定したら? 実際にあることです。あんな優秀な人が言うのならばもしかしして…。

「心の乾いた時代はどう生きるか。やさしく、深く、説かれた宝石のような書である。私も常に座右に置きたい一冊だ。」
これは、この書物の帯に書かれている五木寛之氏の言葉です。

「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

『朝には紅顔ありて』
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

「世のなか 安穩なれ」
十年近く前になるでしょう。本学キャンパスのいくつかの場所に慎ましく貼られている「世のなか 安穩なれ」という言葉にふと足が止まり、佇まずにはいられないことがありました。私自身、阪神淡路大震災で被災し、その後も鳥インフルエンザや豚インフルエンザなどが流行り、折しも東日本大震災で想像もつかぬ大災害に見舞われた後であったように思います。世のなか、安穩であることが決して当たり前ではなく、どれほど稀で貴いことなのか、思わず頭を垂れる気持ちになったことを思い出します。恥ずかしいのですが、それが『御消息集』

「この心深く信ぜること金剛」
「のこくくなるによつて、一切の異見・異学・別解・別行の人のために動乱破壊せられず。」
(善導『観経疏』)

浄土真宗の信心は「金剛」、すなわち絶対に壊れないものに喩えられます。金剛のような信心は、浄土真宗と異なる考えを持つ人からも乱されることはないのです。でももし、卓越した知性を持ち尊敬もされている人物が、浄土真宗の阿彌陀仏の救いを否定したら? 実際にあることです。あんな優秀な人が言うのならばもしかしして…。

「心の乾いた時代はどう生きるか。やさしく、深く、説かれた宝石のような書である。私も常に座右に置きたい一冊だ。」
これは、この書物の帯に書かれている五木寛之氏の言葉です。

「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

『朝には紅顔ありて』
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

「世のなか 安穩なれ」
十年近く前になるでしょう。本学キャンパスのいくつかの場所に慎ましく貼られている「世のなか 安穩なれ」という言葉にふと足が止まり、佇まずにはいられないことがありました。私自身、阪神淡路大震災で被災し、その後も鳥インフルエンザや豚インフルエンザなどが流行り、折しも東日本大震災で想像もつかぬ大災害に見舞われた後であったように思います。世のなか、安穩であることが決して当たり前ではなく、どれほど稀で貴いことなのか、思わず頭を垂れる気持ちになったことを思い出します。恥ずかしいのですが、それが『御消息集』

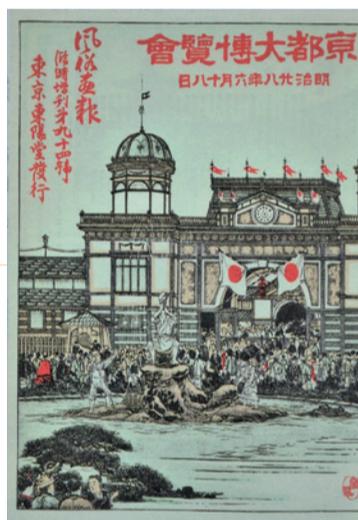
「この心深く信ぜること金剛」
「のこくくなるによつて、一切の異見・異学・別解・別行の人のために動乱破壊せられず。」
(善導『観経疏』)

浄土真宗の信心は「金剛」、すなわち絶対に壊れないものに喩えられます。金剛のような信心は、浄土真宗と異なる考えを持つ人からも乱されることはないのです。でももし、卓越した知性を持ち尊敬もされている人物が、浄土真宗の阿彌陀仏の救いを否定したら? 実際にあることです。あんな優秀な人が言うのならばもしかしして…。

「心の乾いた時代はどう生きるか。やさしく、深く、説かれた宝石のような書である。私も常に座右に置きたい一冊だ。」
これは、この書物の帯に書かれている五木寛之氏の言葉です。

「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

『朝には紅顔ありて』
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年



「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

「朝には紅顔ありて」
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年

『朝には紅顔ありて』
大谷光真 著 角川書店 二〇〇三年